



がんとうしようぎようのじよ
 雁塔聖教序・唐時代、褚遂良の
 倣書で書いています。
 書は行書の筆意を帯びた楷書。
 点画の間は軽妙な細い線で、
 ゆったりとしていて、粘り、抑揚がある。

りんりかんえん ひと
 林裏灌園の人
 山中の隠士である。林裏を樹下又は
 花下に作れるもある。

(王維の詩)